



顧問教諭と一緒にコーチから届いた動画を確認する部員ら

沼島中の陸上部で導入

外部コーチによる遠隔指導

部活動の指導環境を整えようと沼島中学校陸上部で、インターネットを通じた遠隔指導が行われています。

携帯電話大手のソフトバンクのサービス「スマートコーチ」を活用。練習で撮影した部員の映像を、顧問教諭が専用アプリで外部コーチに送信すると、コーチが矢印や図形を書き込んで「添削」された動画が送り返されます。部員らはフォームの改善点やトレーニングのメニューなどを動画で確認して、練習に取り組んでいます。

同部の三宅瞳さん（3年）は「円盤投げの記録が伸びた。自分の回り方や投げ方を、動画で添削してくれてわかりやすい」と話していました。

好きなことを見つけて頑張ることが大切

西淡中で夢プロジェクト

小中学生に大きな夢を持って生活してもらおうと、著名なスポーツ選手や文化人らを講師に招いて行われる「夢プロジェクト」。6月27日に西淡中学校で、漫才コンビ「ますだおかだ」の増田英彦さんが講師となり、全校生188人に夢に挑むことの大切さを話しました。

増田さんは、お笑い芸人として成功するという夢を叶えた経験談を、笑いを交えて披露。「好きなことを見つけてほしい。どんな道でも覚悟を決めて頑張れば、それが正解になる」と熱く語りました。また、父親の故郷への思いを込めて自身が作詞・作曲してCDを発売した歌「淡路島」を歌い、生徒らを楽しませました。



笑いを交えて生徒らに講演する増田さん

日頃の練習の成果を披露

ふれあい文化芸能祭

6月22日～7月18日までの間、中央公民館で「第14回南あわじ市ふれあい文化芸能祭」が開催されました。

期間中はカラオケや、舞踊や大正琴、コーラスなどの芸能の舞台発表のほか、手工芸や絵画、書道、盆栽、写真の作品の展示があり、訪れた人たちを楽しませていました。



青銅が伝える古代のロマン

松帆銅鐸全7点を一挙公開

滝川記念美術館玉青館で、市内で発見された松帆銅鐸全7点を一挙公開する松帆銅鐸夏季特別展「奇跡の松帆銅鐸展～砂山からの軌跡～」を開催しています。松帆銅鐸1号～7号の調査が終了したことから、7点そろっての展示が初めて実現しました。

銅鐸とは、2,000年以上前の弥生時代に作られた青銅器で、釣鐘形のベル。松帆銅鐸は平成27年に砂置場で発見されました。7個という大量の銅鐸がまとまって見つかったことや、吊り下げて銅鐸を鳴らすための青銅製の棒（舌）が入っていたことは非常に珍しく、「国宝級の資料」として注目されています。同特別展は、9月11日（日）まで開催予定です。

また、同特別展が始まった7月6日には、県立相生産業高校が製作した銅鐸復元品の贈呈式がありました。同校の機械科では、青銅器の制作に取り組んでおり、このたび、生徒らが3号銅鐸と舌を復元し、その成果物を市に贈呈。玉青館の来館者が直接手で触れることができる「ハンズオン展示」されています。



01



02

01 松帆銅鐸7点がそろって展示されている特別展
02 松帆3号銅鐸復元品を贈呈した相生産業高校の生徒・教員らと、感謝状を手渡した浅井教育長（中央）



「宇宙タマネギ」を試食する関係者ら

国際宇宙ステーション滞在のタマネギ収穫

「宇宙タマネギ」のお味は

7月5日、淡路農業技術センターで、「東北復興宇宙ミッション」の一環で宇宙に打ち上げられた種から実った「宇宙タマネギ」収穫の報告会が行われました。

このプロジェクトでは、昨年度、東日本大震災から10年の節目に合わせて、国際宇宙ステーション（ISS）から復興支援への感謝のメッセージを世界に向けて発信。被災地を中心とした46地域が参加し、各地域から集めた記念品を宇宙フライトさせ、帰還後に地域振興や産業創成に活用することが計画されています。被災地を支援する自治体として参加した南あわじ市から

は淡路島タマネギ「淡路中甲高黄」の種約1,000粒を預け、昨年6月4日から37日間の宇宙滞在の後、地球に帰還。約100粒を栽培し、約80個のタマネギが収穫されました。

報告会では、同プロジェクトの事務局である一般財団法人ワンアースの松林真弘さんら関係者が宇宙タマネギを試食。島内の主流品種「ターザン」と食べ比べ、「宇宙タマネギの方がシャキシャキ感が強くて甘い」「宇宙の香りがする」と会話を交わしていました。

今後は、約20球を母球として定植し、来年7月ごろに種子約2万粒の採取を見込んでいます。その後は希望する農家に栽培してもらい、新たなブランド品種にすることをめざします。